

佐賀大学「収穫の秋 読書の芋。」について

大学図書館利用促進事例報告会  
開催日：平成26年8月7日(木)  
報告：佐賀大学

秋のおたのしみ

— 創る 食べる 楽しむ



「なんでやねん！」ってツッコんでもらえる企画を目指す。

え？図書館で芋？詳しくは...(\*'艸`\*) #ll\_imo

佐賀大学附属図書館 @SagaUnivLibrary

ちょっとした違和感を提供。  
→ 新鮮だと感じてもらえればうれしい。

キャンペーン開始とともに始まる図書館の奇妙な行動。

- 芋の写真をツイートする。
- 「農学部収穫祭」のミニ写真展のようなことを始める。
- 講義棟や生協に、謎の簡易ポストが掲示される。(しかも入れられない) etc...

お話しする方向性

無料プレゼントは可能か？  
：相手から見れば、**労多く利益少ない**企画に参加してもらえるかどうか。


↓

結果どうだったのか、改善すべき点は？

結果どうだったのか、改善すべき点は？

- どんなメリットがあるのか
- 手間はかからないのか
- 本当に効果はあるのか (来館者は増えるのか・読書奨励になるか)
- 効果を生むにはどのようにキャンペーンを利用すればよいのか

} という視点から。



お話しする順番

Episode 1: **ネタを仕込む** 何をするのが決める。

Episode 2: **戦術設定** イベント成功のための具体的な方法を策定する。

Episode 3: **実行と検証**

Episode 4: **反省と改善点** 実践して気付いたこと。

↓

結論 (まとめ)

こうしておくべきだったという反省。気づいた時には、既に間に合わなかったこと。

## EPISODE 1：ネタを仕込む

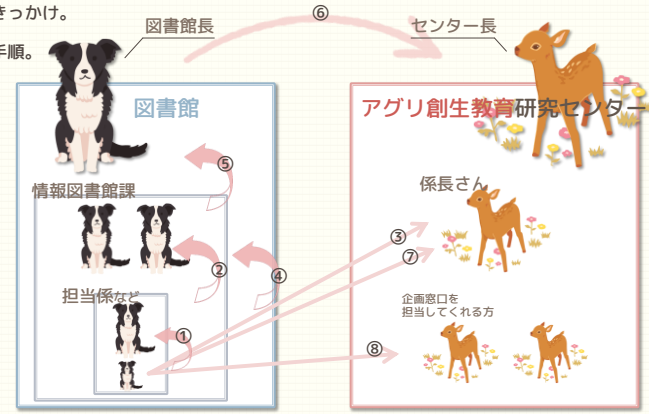
何をするか決める。



5

### 仕掛け 1：おいも（実物）をプレゼントしたい。

- きっかけ。
- 手順。




6

### 仕掛け 1：おいも（実物）をプレゼントしたい。

**50セットの入手に成功!**

さらに、本学職員さんから  
ご提供いただきました。



と、同時に、現物をプレゼントするに  
値するような理由(イベントテーマ)が必要に。

しかも **アカデミック** な感じで。

7

### 仕掛け 2：農とか食とかの紹介コーナーを作りたい。

隠しテーマ

**創って、食べて、愉しむ。**

さつまいもの生産的な面と、  
参加によるコメントシートの作成。

秋を心からたのしむ。

開催 1週間前

突然降って湧いた「さがんルビー侵略危機」。

図書館側でも  
展示準備。

食欲の秋。  
**さつまいもに凝る。**



サツマイモ畑が、佐大だけ  
グレープフルーツの木になる!?



育て方、品種から食べ方・レシピ、  
さつまいもにみる食糧事情まで。  
「さつまいも」の流通マップの展示。

8

## EPISODE 2：戦術設定

イベント成功のための具体的な方法を策定する。



9

### 戦略1：思わず二度見してしまうようなPRがしたい。

- 1 よく見ると…  
おいもを**プレゼントする理由と条件**が記載されていない。  
なぜか**さつまいも**のうんちくが紹介されている。  
しかも、**あちらこちら**(生協や講義棟)で見かける。

朝顔とさつまいもって  
親戚同士なんだからー



図書館への誘導作戦。

目指したのは、**ツッコミ待ちのPR。** どこか変…？  
図書館で何が起きているの？！

Point!

- ・ 学生さんが話のネタにしやすいように、あちこちにネタをばらまく。
- ・ 野次馬心理を刺激する。

10

### 戦略2：「私も一言言わせて」って言いたくなる雰囲気作り。

- 1 **興味がある話題**があると表現してみたいくなるかも。

➡ 人気テーマが並んでいる  
「学生選書コーナー」の近くにイベントコーナー設置。  
共感しやすいテーマが目に入りやすく。



参加への誘導作戦。

2



正しい芋の作り方

11

### 戦略3：いいね！は紙媒体でも有効か？

- 1 前年度までは…

1. 所蔵していない本を購入,
2. キャンペーン期間後にコメントとともに展示,
3. 読みたくなかった本には「いいねシール」を貼ってもらう。

という方法で「キャンペーンのお礼&成果報告」をしてきた。



今回は、いいねシールのタイミングを少し早めて、

「コメントの投稿」よりも少し**ハードルの低いめの参加方法**として、  
イベント中に「いいね！」シールを貼ってもらうことに。



Point!

コメント参加者に、他者から**共感を得られるように**  
**表現することの面白さ**を感じてもらいたい。



12

### 戦略4：せっかくだから他大学生のおすすめも見てほしい。

キャンペーンに参加している大学の  
おすすめコメントがWebを通して見られる。

➡ **ブックログ(Booklog)誘導作戦。**

**1** BIGPADで本をタッチしてもらったら面白い？

画面が大きいので、  
触っていると速くからも  
画面が見えるから、  
興味本位で人が集まるかも。

↓ 肝心な操作者から、  
画面が見えにくい。

タッチタイプではない、ディスプレイにて、  
ブックログ紹介とともに本をピックアップ。

**2** 貸出iPadを使って。

紙媒体から  
電子媒体への誘導は、  
想像以上に難しい...

ということで、今回は、  
見てもえれば  
**合格点**ということにしました。

貸出iPadの画面で見ると、  
こんなに大きく見えるよ  
(というiPad利用促進宣伝)

### 戦略5：さつまいもには絡められなかったけど、図書も読んでほしい。

**1** はじめての  
**ビブリオバトル予選大会**を開催。

**2** 学生選書委員のメンバーにご相談。  
—残念ながら、  
期間中には実現できず。

後日こんな可愛い  
**ポップ×しおり**  
ができました。

—後日、ビブリオバトル  
についての講演会も  
開催されました。

**図書への誘導作戦。**

### 戦術確認

**戦術**

① 思わず二度見して  
しまうような事前PRで、  
図書館に誘導。

② 「私も一言言わせて」  
って言いたくなる雰囲気  
を作って、参加へ誘導。

③ いいね！ 方式を導入して、  
参加のハードルを調整。  
二次的参加への誘導。


④ Web (ブックログ) への  
誘導とともに、  
扎扎实りICT環境の宣伝。

⑤ やっぱり読書奨励が目的。  
さつまいも企画には  
絡められなかったけれど  
同時開催イベントで  
図書への誘導を企む。

15

### EPISODE 3：実行と検証

実践して気付いたこと



16

### 実行と検証1：現物のおいものは、本当に効果があったのか。

結論：絶大。

口コミと、学生さんのTwitterにより、  
おいも(現物)がもらえるイベントを開催していることが伝わる。

- ➡ 学生さん同士の言葉には、客観性や信頼性があったのか？  
ただし、こちらではコントロール出来ないのも事実。

現物のサンプルを下げると投稿が一気に減ってしまう。

- ➡ ただでもらえるものは大したことないという意識かも？  
物質として認識できることが大切。

17

### 実行と検証2：ゲーム性を追加してみる？

- ❗ 予想以上においもの減りが早い。  
正直ひるんでしまい、いただく数を減らしてしまったのも原因。

そこで…

ビンゴ形式にしたりスタンプ形式にしたりして、  
ゲーム性が追加されたほうが面白いし、参加しがいがある意欲が湧くのでは？

今回はアタフタしている間に、  
手遅れになってしまったけれど、  
今後、戦略の一つとして考慮に入れていきたい。

※ ちなみに、新入生オリエンテーションは  
スタンプラリー形式で実施したところ、大成功。

緊張と緩和を  
楽しんでもらう

18

### 実行と検証3：農場の展示。ハプニングもあったけど…



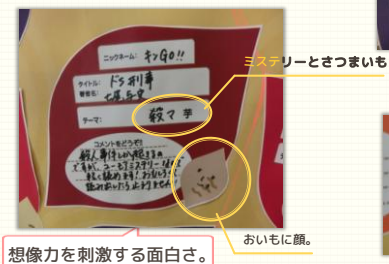
原因不明のファイル破損でデータが！？  
応急処置として、既に印刷していたものを  
持参してもらうことになりました。ごめんね (。人。)

↑ポスター展示の代わりに  
急遽開催されたミニ写真展

19

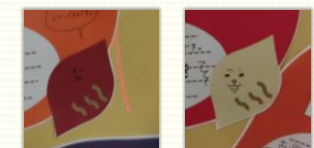
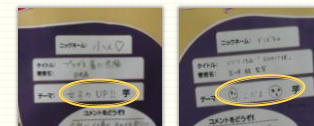
### 実行と検証4：手描きならではの面白さ。

見てもらうために表現方法を工夫する。 機知に富んだネーミングセンス。  
他者の表現を分析して真似してみる。



想像力を刺激する面白さ。

おいもに顔。



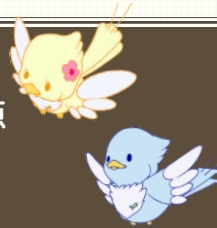
おいもに顔をつけちゃう。

20







## EPISODE 4：反省と改善点

こうしておくべきだったと感じたこと。  
気づいた時には、既に間に合わなかったこと。



21

### 改善点：気づいた時には、既に間に合わなかったこと。

-  今後の事も考えて、いかに学内に知らせられるかが重要だった。  
たとえば学内のお知らせ、地方新聞など？
-  達成基準を明確にしておくべきだった。  
農場への報告のために、目標が必要だった。今後のためにも。
-  さつまいもの数の見積もり。  
追加は図書費になってしまうから無理だった。  
企画段階でしっかりと見積もりを立てることが大事。
-  同時に開催される企画に共通性を持たせて、期待感を高めていく。

22




## 結論

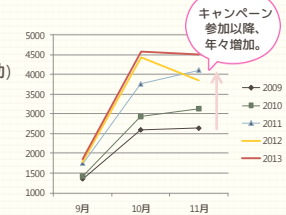
まとめ



23

### 結論として…

-  無料プレゼントは可能か。  
→ 今回は学内コラボということで無料でご提供いただけたが、必ずしも「無料提供」が実現できるとは限らないので、事前の予算的な裏付けが必須。  
何を、どこから、どのような経緯でというしっかりした事前計画も必要。
-  どんなメリット (効果) があるのか。  
→ 集客効果は確実に期待できる。  
貸出冊数も年々増えてる？(読書奨励)
-  手間はかからないのか。  
→ 今年ははじめてだったので、それなりに手続きも必要だったが、実績を重ねていけば、協力をお願いしやすくなるかも。



プレゼントは楽しいけれど、ものすごくハラハラする！

24

